

H 2 8 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金
(慢性の痛み政策研究事業)
慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究
分担研究報告書

山口大学ペインセンターの構築とカンファレンスシート導入に関する研究

研究分担者 田口敏彦 山口大学大学院医学系研究科 教授
研究協力者 鈴木秀典 山口大学大学院医学系研究科 助教

研究要旨

昨年度に引き続き、山口県内に慢性疼痛治療の拠点となる山口大学ペインセンターを設立し、集学的治療を実践している。さらには県内の医療連携システムを構築し、ペインセンターを中心とする地域の医療システムを構築しつつある。また全国に先駆けて、多職種にわたる慢性痛医療スタッフを育成するための痛み教育センターを設立し、医学教育を開始している。また、患者評価の重要なツールの1つとなる、カンファレンスシートについては、当科で実際に評価を行っている項目を導入して、実際のシートの導入を行い、症例データの収集をおこなっている。

A . 研究目的

山口県内に慢性疼痛治療の拠点となるペインセンターの設立を行い、地域の中心的な拠点センターとしての機能を確立させること。また実際に集学的治療を実践するなかでのシステム上の問題点を指摘し、これを研究班にて検討すること。また全国痛みセンターで今後使用するカンファレンスシートの初期導入を行い、データ解析を行う中で、改良点を見出すこと。

B . 研究方法

平成 26 年から設立した山口大学ペインセンターのセンター化と標榜を行い、さらには地域の痛み医療に関する啓蒙・教育活動を進め、山口県内の慢性疼痛医療システム・病院連携システムを進める。またペインセンターでのカンファレンスにおいて、カンファレンスシートの導入を行い、患者評価を進める中

でその利点と問題点を検討する(実際に導入したカンファレンスシートは別紙)

(倫理面への配慮)

カンファレンスシートなどのペインセンターでの導入に際しては、山口大学 IRB への倫理審査提出を予定しているが、現時点では具体的な患者データの利用や公表などはないため、倫理面での問題はない。

C . 研究結果

山口大学ペインセンターでは、整形外科、ペインクリニック科、精神神経科・リエゾン科、理学療法士、作業療法士による集学的治療を実践している。山口大学病院内に 3 床のベットを持ち、地域や各科単独では治療困難となった慢性痛患者の診療にあたっている。隔週でのカンファレンスを行い、独立したユニットとして患者治療にあたっている。

カンファレンスシートについても、実際の

カンファレンスで患者評価としてこれまでも用いてきた、iPad 問診システムデータ、MMPI 性格テスト、JART による IQ テスト、体幹筋力の評価や柔軟性評価を、シートの形にして、カンファレンスシートの形を作成した。また多職種カンファレンスの際に述べられる様々な意見を集約できるようにカンファレンスシート内に各コメントを記載できるようにした。

山口大学ペインセンターにて集学的なユニットが治療介入を行い、カンファレンスを行い、実際の治療を行った患者は、H28 年度では約 40 人であり、その数は増加傾向にある。また、県内外を含めて、30 件程度の慢性痛に関する講演を行い、痛み医療の啓蒙と教育をおこなった。山口県内では各地区にペインクリニック医師を中心として拠点病院ができつつあり、山口大学ペインセンターを中心とする慢性痛患者の地域医療システムが確立しつつある。

集学的治療を行う上で、多職種の医療スタッフが各患者の診断や治療に介入していくことになるが、診療レベルの向上のためには一人一人のスタッフの慢性痛に対する深い知識と医療技術レベルの向上が必須であり、これがないと診療上の情報共有と各専門スタッフによる専門的な治療介入がそもそもできない状況である。我が国の現状は、こうした慢性痛に関しての医学教育が皆無の状況で、根本的な慢性痛治療を行う上での問題点を有している。こうした抜本的な問題点の解決のため、現在、山口大学に慢性痛医学教育センターを設置し、慢性痛に関する医学教育の普及と標準化を行い、全国に広げていく活動を開始している。

D . 考察

山口大学ペインセンターでの慢性痛患者に対する集学的治療のシステムは確立しており、

また山口県内においては、山口大学ペインセンターを中心とする地域医療連携が徐々に構築されつつある。日常診療上は、患者・医療スタッフにとって、ともに診療を円滑化し、これまで対応困難であった慢性痛患者を実際に治療可能とし、約半数程度で治療の有効性を見いだせることがわかってきた。大きな問題点は、診療報酬やコストを含めたシステム自体が、諸外国と異なり、我が国には存在しないため、こうした集学的治療は、従事する医療スタッフのボランティア活動としてのみで成り立っている根本的な問題点が存在する。長期的にこうした慢性痛医療をシステムチックに進めるためには、行政的な観点から、諸外国同様のシステムを確立していくことが必須であると考えられる。

患者評価の大きな柱となるカンファレンスシートも、日常診療のツールとして、各項目の評価はおこなった(別紙参照)。データ解析はまだ加えていないが、実際の使用で得られた経験では、比較的簡便なものでなければ、日常診療上は使用しにくく、現在は、ICD-11 を含めた診断と iPad 問診システムでのデータ入力、そして各職種スタッフからの意見と患者の問題点を明確にし、今後の治療方針を記載する形のものに変更を予定している。

カンファレンスシートをはじめとした正確な患者評価とデータの保存、共有化は集学的治療を行う上で必要不可欠である。

E . 結論

山口大学ペインセンターを中心とする山口県内の慢性疼痛医療の地域連携システムの構築に関する現状を報告した。患者評価の重要なツールの一つである、カンファレンスシートの導入・改良の現状について報告した。

F . 健康危険情報

なし。

G . 研究発表

1.論文発表

1) Suzuki H, Kanchiku T, Imajo Y, Yoshida Y, Nishida N, Taguchi T.

Diagnosis and Characters of Non-Specific Low Back Pain in Japan: The Yamaguchi Low Back Pain Study. PLoS One. 2016 Aug 22;11(8):e0160454.

2) Kanchiku T, Imajo Y, Suzuki H, Yoshida Y, Nishida N, Taguchi T.

Psychogenic Low-back Pain and Hysterical Paralysis in Adolescence. Clin Spine Surg. 2016 Jun 28. [Epub ahead of print]

3)田口敏彦

運動器疼痛のトータルマネジメント

日本ペインクリニック学会誌(2016)23巻3号 Page261.

4) 田口敏彦, 柴田政彦, 北原雅樹, 牛田享宏

痛みのClinical Neuroscience 本邦における慢性痛対策 見えてきた課題
最新医学(2016)71巻3号 Page426-439.

5) 寒竹司, 田口 敏彦

特異な病態 頸部外傷性症候群の診療
脊椎脊髄ジャーナル(2016)29巻4号
Page437-442

6) 鈴木 秀典, 田口 敏彦

【神経学的所見に乏しい腰痛の診断と治療】
神経学的所見に乏しい腰痛の診断 理学所見から
ペインクリニック(2016)37巻10号
Page1239-1248

7) 鈴木 秀典, 田口 敏彦

脊髄再生・損傷の基礎研究 神経前駆細胞移植
整形外科(2016)67巻8号 Page864-868.

2.学会発表

1) 鈴木 秀典, 寒竹 司, 今城 靖明, 吉田 佑一郎, 西田 周泰, 田口 敏彦

Pain-source 別の腰痛の特徴 腰椎椎間関節症の診断と治療

日本整形外科学会雑誌(2016)90巻2号
Page S336.

2) 鈴木 秀典, 寒竹 司, 今城 靖明, 吉田 佑一郎, 西田 周泰, 田口 敏彦

整形外科医からみた非特異性腰痛 山口県腰痛 study

Journal of Spine Research(2016)7巻3号
Page753

3) 鈴木 秀典, 寒竹 司, 西田 周泰, 瀬戸 隆之, 岡崎 朋也, 田口 敏彦

神経障害性疼痛を有する動物モデルに対する新たな疼痛行動評価

日本整形外科学会雑誌(2016)90巻8号
Page S1586

鈴木 秀典, 寒竹 司, 村上 智俊, 今城 靖明, 吉田 佑一郎, 西田 周泰, 田口 敏彦
日本整形外科学会雑誌 89巻8号 PageS1633

4) 岡崎 朋也, 寒竹 司, 鈴木 秀典, 西田 周泰, 船場 真裕, 瀬戸 隆之, 田口 敏彦

鈴木 秀典, 寒竹 司, 今城 靖明, 吉田 佑一郎, 西田 周泰, 田口 敏彦

アロディニアに対するリハビリテーションの治療効果と脊髄保護作用

Journal of Musculoskeletal Pain Research(2016)8巻3号 Page S47.

H . 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3.その他

なし